



ARTIST
NO
KOSODATE?

アーティスト
の
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 40代

03 性別 男性

04 子どもの数 2人

05 子どもの年齢 13歳、10歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

自営業でアートディレクターやコミュニケーションデザイナーをしています。料理家の妻と、食とデザインをテーマにしたユニットを組んで仕事をしています。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？
または過去に利用しましたか？☒ はい ☐ いいえ

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

☐ 保育園 ☐ 通常保育 ☐ 一時保育 ☐ 認可 ☐ 認可外 ☒ 幼稚園 ☐ ファミリーサポートセンター
☐ その他

保育園には行かせていません。子ども2人とも、3歳から3年間幼稚園に通いました。極力自分たちの手元で子育てをしようというのが夫婦の方針で、仕事のケータリングの現場にだっこ紐をして連れて行ったこともあります。

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

☐ 保育園や学校に行っている間 ☐ 睡眠時間を削る ☐ 子どもが寝てから ☒ 早朝 ☐ 実家・親に預ける
☐ 配偶者に預ける ☐ 仕事の合間 ☒ 仕事が休みの日 ☐ 捻出できない ☐ その他

子どもが家にいるから仕事が進まないという状況になったら嫌だなと思って、本で早起きを推奨しているのを読み、実践しています。夜9～10時に寝て、家族のなかで一番早く朝4時に起き、6～7時まで集中して仕事をするというスタイルが僕には合っていました。夜は疲れているし、ああでもないこうでもないとかよくよ考えがちなのですが、朝はプラス思考になれるので好きです。家族の時間と住み分けをすることで仕事の効率も質もアップしています。

ただ、一人にならないと考えられない場合と、子どもがいた方が助かる場合があります。後者では、例えば子どもにイラストを見せて「これ何描いているかわかる？」と聞き、反応を確かめて、伝わりやすいプレゼンを模索するのに力を借りることもあります。

10 一日のうちで、①育児にける時間、②作家活動にける時間、③作家活動以外の仕事にける時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？
およその時間を教えてください。

① 育児：0時間 → 2時間

② 作家：0時間 → 3時間

③ 仕事：10時間 → 7時間

育児にける時間は妻9対僕1くらいです。でも、コミュニケーションはよくとっている方で、子どもたちは自分の部屋がまだないので、自然とリビングに集まってきて、学校のことや部活のことなどよく話をします。作家活動は、子どもができてから色々な人とつながりができて本格的にやるようになりました。

11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？

子どもが生まれたから仕事や制作の場所を変えたということは特にありません。ただ、家と仕事場を分けたいと考えて、5年前に自宅から自転車で5分ほどの距離に店を出して以来、仕事はそこですることが多いです。早朝、考え事をするときは家でやっています。

12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

子どもが生まれてから、表現が柔らかくなったり、分かりやすさをより追及するようになりました。

例えば、子どもが通う小学校のPTAのTシャツをボランティアでデザインしているんですが、子どもに伝わるのであればみんなに伝わるなど考えることは結構あります。

大人の社会って、どうしても大人ぶって、カッコつけちゃうことが多いですよね。大人を演じている大人が多いと言うか。仕事を依頼される時に、「ちょっとそこにブース出して、ツンとした大人の雰囲気をかき混ぜてもらいたい」って言われることがあるんです。そこで僕が駅長の格好をしてブースの前で立ってみたり、イチゴの帽子をかぶって似顔絵を描いてみたり、コスプレとの間のギリギリのラインにあるようなことをしています(笑)。でも、まじめな話、そういう雰囲気づくりが日本ではやっぱり大事だと思います。

国会中継なんか見ても、誰があれを面白いと思って見るのだろうと疑問です。日本の特に政治の場には、見せることへの配慮の欠如が顕著ですね。今年のG7サミットはドイツで開催されましたが、ロゴもおしゃれだし、代表者が演説する場所の場の作り方(統一されたテーマカラー、国旗の掲揚の仕方)もセンスがよくて、子どもたちもニュースを見てそこに反応するんです。「G7のあれ、めっちゃくちゃカッコよくない!？」って。中国もデザインの力を理解して発信していますね。でも日本の公共の場には、よくデザインされたものは少ないので、その差を埋めたいなと強く思います。

僕はスポーツ観戦が好きなのですが、何を見ているかということ、会場の作り方です。全仏オープンでは赤土のコートがよく見えるように客席には深い緑色を使い、ペリエやバリバのシンプルな白抜きのロゴを配しているし、全英オープンでは気品を重んじて選手は必ず白いユニフォームを身につけなければいけません。プレーがよく見えるように考えられているからこそ世界大会ですね。それと比較して日本のフィギュアスケートは、スポンサーのけばけかしいロゴしか目に入ってこない。何を見せたいのか、本質のとらえ方の違いが如実にありますね。自分が携わっているPTAや大学の教育現場では、センスやデザインの考え方をきちんともった子どもたちを育てたいなと思っています。それは日本の喫緊の課題でもあるわけだから、その育成には国などの公的な支援があるといいですね。

13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

家庭生活に関しては、コロナ禍になって家族との距離感にストレスを感じている人が増えているという報道がありました。僕の場合は今まで通りなのでストレスは全然なかったです。

ただ、仕事に関しては大打撃でした。コロナ禍になる前は、主に都内で何百人規模の食事の提供もしていましたが、コロナ禍により主軸にしていたケータリングやイベントが全滅して、仕事量が半減したこともあります。それで地元で何ができるかということを中心に考えました。そして、自分の店を食堂やカフェとして使って、どうビジネスにしていけるかということを実践していきました。会社勤めではなく自営業なので、自分の力が頼りです。2020年の春に学校が何週間か休みになった時は、学校に行けない子どもたちのために、オンライン上で作品を展示・鑑賞する企画を立てました。かつてPTA会長をしていたこともあり、困っている学校を何とか手助けできないかという気持ちもありました。自分の中ではとてもいい企画だったと思っています。色んな人を巻き込んで、審査員を引き受けてもらったりして、みんなの持ち出しで運営しています。

14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

自分たちは夫婦であり仕事のパートナーでもあるので自由が利くところがあって、役割分担をしています。基本的に、打合せや現場に行くのは主に自分の仕事で、裏方を自認する妻は家で子どもと一緒にいるかたちです。でも振り返ると、合同展示会や地方のイベントには、それが子どもの教育にもなるんじゃないかと考えてよく子連れで行きました。現場には面白いディレクターの方とかクリエイターの方がいますからね。子どもたちも人が好きな性格なので楽しんでいて、そのうち「あれ、今日はお子さん来てないの?」と言われるぐらい子ども同伴が自然になっていました。

ある雑貨ブランドから、子どもたち向けのクリスマスのワークショップを企画してほしいと言われて関わったことがあるのですが、その時もワークショップ当日に幼い息子を連れて行きました。幼稚園児だったか小学校に入りたてだったかくらいの年齢だったと思います。広い会場に大勢の人がいて、いくつかの人の輪ができていました。息子はまだ幼いので、ランチの時間には父ちゃんと一緒に食べると言ってこっちに来るかなと思いましたが、クライアントのチームの輪の中ですごく楽しそうに食べていました。その姿を見て、スタッフとしていい働きをしているなと思ったし、親として子どもの巣立ちを感じましたね。息子だけでなく娘も見知りしないタイプです。また、雑誌などの取材を受けることも多く、子育てしながら活動している夫婦ユニットというイメージが定着してきたかなと思います。取材を受けたりしてメディアに露出することは全く厭いません。自分たちが日常生活で自然にやっていることを面白がってくれるのであれば嬉しいし、そこからまた新たなご縁がつながることもあります。

妻があるお菓子メーカーのレシピ開発を依頼された時、カメラマンと息子がとても仲良くなったんですね。そうしたら後日息子に、老舗デパートのランドセルのモデルをやってくれないかとオファーがありました。親よりもいい仕事を取ってきたなと感心しました（笑）。

子どもの存在は、僕にとっては仕事にもイメージ作りにもプラスになっているので、言葉は悪いかもしれませんが、最大限活かすつもりです。

15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいいますか？

アート関係のパパ友やママ友はたくさんいるので、相談しようと思えばいるという感じです。

16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。

☒ リサーチ ☒ 制作 ☒ 展示 ☒ ワークショップ ☒ アーティスト・イン・レジデンス ☒ その他

制作・展示・ワークショップはすでにやっていますが、リサーチとアーティスト・イン・レジデンスは経験がないのでやってみたいです。一定期間集中してある地域に滞在して現地の人と交流し、郷土の文化にもふれて、自



分に何ができるだろうとか、その人たちと組んで何かできないかなと考えるのは興味があります。

よく伝統産業や農業の担い手がないということを聞きますが、先日ニュースで、アプリを作って農業をしたい若者を募りマッチングさせているということを聞きました。面白いですね。アーティストと一緒に地方に行って、一過性ではなく、定着するようなスモールビジネスを考えるということもしてみたいですね。アーティスト・イン・レジデンスではなく、ディレクター・イン・レジデンスもいいかもしれません。今は葉山に住んでいますが、たまに狭さも感じるので、時々は外に出ないといけないなと思っています。

「その他」としては、授業などでデザインについて伝えていく仕事をしています。

17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？
特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。

☒ 家族の協力 ☐ ひとりの時間 ☐ 収入 ☒ 美術に関する仕事への就労 ☐ 仲間の存在 ☐ その他

18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、
子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。

大人と子どもの境界を設けない企画やプロジェクトがあったらいいですね。先日、サーフィンの体験イベントに子どもと参加したんですが、僕も子どもも初心者だったこともあり、同じように楽しめました。上達はむしろ子どもの方が早いくらい。美術館などでは大人向け、子ども向けなどと対象年齢を絞ったワークショップをやることも多いと思いますが、一緒に楽しめるようなやり方ができたらいいですね。

19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？

だいぶん先のことになるので、今はちょっと想像できません。